

様式 1

教員 EA プロジェクト応募資料

応募区分	教育実践部門
所属（学校名）	羽島市立正木小学校
氏名	浅野由香、浅井洋美
取り組んだ課題	幼保小連携による小1プロブレムの解消
具体的な活動内容	<p>本校では、14の園から園児が入学するため、お互いに初めて出会う仲間が多いことや園と学校の生活の違い、生活に適応できない状況も少なからず見られる。そこで、園と小学校の接続を円滑に図ることにより、児童が小学校生活に適応できる環境作りを進めた。</p> <p>(1) 小学校生活に慣れるための生活科 4月当初に、トイレの使い方、カバンの片付け方、靴の入れ方など、小学校生活を送るために必要なスキルを学ぶ時間を設定し、実際に行動する。安心して学校生活を送ることにつながった。</p> <p>(2) 卒園時の園長、担任による授業参観 2回 幼稚園、保育園、認定こども園の卒園時の担任に来校していただき、授業参観をした。児童は、懐かしい顔で当時の担任の先生を見たり、休み時間に会話をしたりして過ごした。当時の担任の先生からは「小学校、頑張っているね」と声をかけられた児童は、とてもうれしそうな笑顔を返していた。このことから、安心して小学校生活を送ることにつながった。</p> <p>(3) 情報交流会 幼稚園、保育園、認定こども園の卒園時の担任や園長と1年生関係職員との情報交流会を設けた。児童の当時の姿などの交流を行ったことで、児童理解が深まった。園長からは、園の経営方針を語られ、一斉保育を採用している園と自由保育を採用している園があることを知り、園での経験の違いが明らかになった。1年生の学年経営に生かすことにつながった。</p> <p>(4) 特別に支援を必要とする園児が通う園との交流 知的な障がいがある児童が通う園と授業参観、情報交流会を実施した。園長には、知的障がい学級を参観していただき、児童の成長ぶりに驚いている様子であった。園で行っていた支援を知ることができ、小学校での支援の参考になった。</p> <p>(5) 小学校の校長が園を参観 まさきこども園を訪問し、園長から園の経営方針を伺うとともに、園内を見学した。自由保育を取り入れていて、園児が自分の考えに基づいた遊びをしていた。遊びのための環境が整えられていて、園児が自由に遊んでいた。小学校では一斉授業を行っているため、自由保育の考えを小学校の教育活動で取り入れるための示唆が得られた。</p> <p>(6) 1年生担任の実習 1年生学級担任3名が7月31日、まさきこども園とひかり泉こども園で実習を行う。</p>
取り組み成果	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの使い方など、生活科の学習により円滑な接続につながった。 ・幼保園と小学校の教職員が情報交流の場を設けることにより、お互いの考えを理解し、児童の支援や援助につなげることができた。その結果、1年生の学校不適応、不登校は0人である。小1プロブレムの解消につながった。
今後の活動展開	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保園と小学校が連携して、小学校入学までに園児につけさせたい力を明確にする。 ・つきたい力をもとにして、園卒業時から小学校入学時にかけて橋渡しをする「スタートカリキュラム」を作成すること。 ・幼保園と小学校の教職員の連絡会を定期的実施し、視点を決めた情報交流会を行うことにより、より一層、円滑な小学校生活につなげる。
校長所見	<p>幼保園と小学校が同じ方向を向いて児童を育てることが求められている。そのためには教職員同士の交流は欠かせない。小学校入学までにどんな力をつけてほしいかを幼保園と協力して作成していくための試みである。継続した連携に期待をしている。</p>

参考資料

1 幼保小連絡協議会



1年生の授業を参観する園長先生ら 6月6日

2 幼保小連絡協議会 情報交流



第1回 情報交流会 5月17日



第2回 情報交流会 6月6日

3 情報交流会からみえた連携の在り方

(1) 幼保こども園参加者からの意見

- ・個を大切にされた保育を続けてきた。小学校入学までに自分でできることを増やしてきた。卒園生が、座って授業を受けていることがうれしい。
- ・45分座っていただけるか心配していたが、成長したところが見られてうれしかった。
- ・園での生活では45分間ずっと座っていることはない。年長では、集中力をつけなければならないと感じた。小学校の先生方が子供達を肯定的に見ているのがよい。

(2) 特別に支援を必要とする園児が通う園からの意見

- ・園では一斉保育を見直している。発達に特性がある子は周りの子が何をしているか気になる。着席も難しい子だったが、学習に参加している姿を見てうれしかった。卒園生で療育を受けた子が通常学級での学校生活を送っているのを、支援をお願いしたい。

(3) 幼保こども園での指導体制についての意見交流

- ・A園 年長ではグループを作って、役割を決めて生活を送っている。
- ・B園 困っているのはその子自身で教師ではない。近くで声をかけてあげて支援している。
- ・C園 日々トラブルが起きているが、子供達に考えさせる指導をしている。
- ・D園 英語のレッスンをしているが、ずっと座りっぱなしではない。
- ・E園 卒園式に向けて座る習慣をつけなければならないので、年長後半には習慣づけている。

(4) 連携の在り方について

本校では、一斉保育を中心とした園や自由保育を中心とした園など、様々な生活を送っていた児童が進学している。入学までにどんな力をつけてほしいかを明らかにして連携したい。小学校では一斉指導が中心となるが、連絡協議会を開催することで、小学校教育の在り方を考える一助としたい。